

きょうほれんニュース 2025.12

京都保育団体連絡会 発行

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都 5 階

TEL075-801-8810 Fax075-822-6220 kyohoren@gmail.com



「子どもたちにもう1人保育士を！」を求める学識者の会

京都でシンポジウムを開催！！



11月30日、キャンパスプラザ京都にて、日本の保育士配置基準を世界水準まで引き上げることを目指す『子どもたちにもう1人保育士を！』を求める学識者の会のシンポジウムを開催しました。登壇者は京都大学大学院教授柴田悠先生(政策社会学)、京都華頂大学教授西川由紀子先生(発達心理学)、名城大学准教授蓑輪明子先生(経済学)です。

柴田先生からは、これまでの研究により「3歳児神話」が完全に否定され、0～2歳児の保育が格差の縮小、幸福度向上につながっているという研究が紹介され、また、配置基準や保育士の専門性が高いほど発達促進効果が大きいことから、日本の3歳以上の基準は国レベルでは不十分だという報告がなされました。

西川先生からは、「かみつき」問題に着目し、日本での詰め込み保育の推進によって「かみつき」が増加したこと、一方の「広い空間」のあるイタリアでは「かみつき」が問題となっていないことなど、配置基準と合わせて、空間も重要であるという報告がなされました。

蓑輪先生からは、横浜市や名古屋市、尼崎市、旭川市などの複数の自治体の保育制度を比較する研究を進めており、配置基準によって、保育の質や労働環境に大きな影響があること、国基準では保育の質と保育者の労働環境保障は両立できず、配置基準の抜本的見直し、国は最低限の保障(ナショナルミニマム)を担うべきだと報告がありました。

その後は、登壇者間での意見交換や会場との質疑応答に移り、保育士配置基準の改善を共通の切り口としながら、現在の保育が抱える様々な論点や課題が関連する形で展開され、非常に活発な議論が行われました。

運営では、京保連役員のほか、経営懇の先生方の協力もいただきました。ありがとうございました。
学識者の会では現在、書籍の出版を予定しており、3月には出版記念のシンポジウムも計画しています。引き続き保育配置基準の改善に向けて、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

学識者の会のアピールは右の QR コードからご覧いただけます。学識者の賛同も募集していますので、お知り合いの研究者や弁護士、医師などにぜひご紹介ください。



日本みて歩き その15 -北海道・下川町- 藤井伸生

人口 2800 人程度で旭川市の北に位置する下川町は、豊富な木材を原料に循環型のまちづくりをしています。写真①にみるように、木材をつかった再生可能エネルギーによる地域作りをしています。町内の五味温泉はチップボイラーで加温しています。

一の橋地区には、限界集落で孤立しがちな人達を集める集住地区を設置しています（写真②）。写真③はこの地区の熱供給施設です。ここから各家庭に温水をパイプラインで供給し、給湯・暖房をまかなっています。

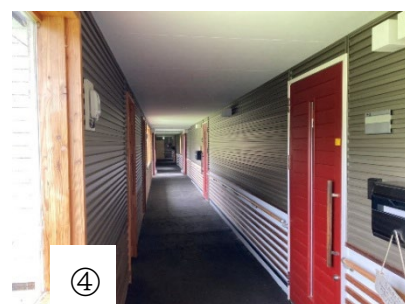


②



③

写真④は、雪国なので近所に行くにも大変になるので、屋根がある通路があり、近辺のお家に行きやすくしています。人の良い居住者に出会い、お家の中も見せてもらいました。



④

「快適です」とのことでした。下川町の名産にフルーツトマトがあります。そのトマトジュースは最高においしかったです。トマトの天ぷらの入ったうどんもありました。

※京都市の保育・学童保育制度拡充を求める署名の最終〆切は 1/16 になりました！

各園集まっている署名は、大至急京保連までお届けください！

現在の集約数は

国向け署名 5002筆 (昨年集約 23,830 筆)

京都市宛署名 4837 筆

支援金徴収反対署名 449筆 この署名まだの方は是非ご協力を→

